

聖籠町の統一的な基準による財務書類（平成30年度 一般会計等）概要

平成30年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	116億9,375万円	1 固定負債 (1) 地方債 25億7,135万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	31億9,302万円	(2) 退職手当引当金 10億1,575万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	1億8,624万円	(3) その他の固定負債 0万円	
	(4) 投資その他の資産	40億4,836万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 8,367万円	
			(2) その他の流動負債 4億5,326万円	
			負債合計 41億2,403万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	6億366万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
	(2) 基金、未収金など	5億2,429万円	純資産合計	161億2,530万円
資産合計		202億4,933万円	負債及び純資産合計 202億4,933万円	

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	3億9,495万円
本年度資金収支額	9,675万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	6億1,182万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△3億2,401万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△1億9,107万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	1億1,196万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	6億366万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	159億9,836万円
本年度変動高	1億2,694万円
△純行政コスト	△63億4,390万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	62億1,271万円
資産形成への充当	2億5,813万円
その他	0万円
本年度末純資産残高	161億2,530万円

町の資産と負債の状況

- ① 住民1人当たりの資産と負債残高**（平成31年3月31日現在人口 14,365人）
資産 = 141万円 負債 = 29万円
- ② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 79.6%**
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- ③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…… 77.2%**
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※ 平成30年度末現在：償却資産取得価額等： 475億808万円 減価償却累計額： 366億8,699万円
- ④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 25.6%**
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の平成30年度財政運営の総括

- ① 業務活動収支 6億1,182万円 ⇒ 堅調な財政運営**
 - ② 投資活動収支 △3億2,401万円（基金積立、資産形成）**
 - ③ 財務活動収支 △1億9,107万円（将来世代の負担）**
- ①～③の合計である平成30年度の資金収支は 9,675万円
- 前年度資金残高との合計は 6億366万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	66億3,631万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	13億5,072万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	30億5,001万円
その他の業務費用 支払利息など	5,016万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	21億8,542万円
経常収益	2億9,198万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	63億4,432万円
臨時損失 災害復旧費など	0万円
臨時利益 資産売却益など	42万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	63億4,390万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（平成30年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	8.5	25.00
将来負担比率 (%)	44.2	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

聖籠町の統一的な基準による財務書類（平成30年度 全体会計）概要

平成30年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	118億2,967万円	1 固定負債 (1) 地方債 84億5,525万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	166億855万円	(2) 退職手当引当金 10億4,907万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	20億4,340万円	(3) その他の固定負債 67億5,181万円	
	(4) 投資その他の資産	41億1,962万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 9,167万円	
			(2) その他の流動負債 11億1,594万円	
			負債合計 174億6,374万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	16億4,699万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
	(2) 基金、未収金など	6億7,580万円	純資産合計	194億6,028万円
資産合計		369億2,402万円	負債及び純資産合計 369億2,402万円	

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	13億4,874万円
本年度資金収支額	1億8,429万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	10億2,667万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△4億4,370万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△3億9,869万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	1億1,396万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	16億4,699万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	192億2,630万円
本年度変動高	2億3,398万円
△純行政コスト	△90億631万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	89億8,216万円
資産形成への充当	2億5,813万円
その他	△23億8,719万円
本年度末純資産残高	194億6,028万円

町の資産と負債の状況

- 住民1人当たりの資産と負債残高**（平成31年3月31日現在人口 14,365人）
資産 = 257万円 負債 = 122万円
- 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 52.7%**
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 63.0%**
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】
※平成30年度末現在：償却資産取得価額等：675億8,872万円 減価償却累計額：425億6,695万円
- 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 89.7%**
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の平成30年度財政運営の総括

- 業務活動収支 10億2,667万円 ⇒ 堅調な財政運営**
 - 投資活動収支 △4億4,370万円（基金積立、資産形成）**
 - 財務活動収支 △3億9,869万円（将来世代の負担）**
- ①～③の合計である平成30年度の資金収支は **1億8,429万円**
- 前年度資金残高との合計は **16億4,699万円**

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	98億2,386万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	14億8,823万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	37億7,889万円
その他の業務費用 支払利息など	2億2,916万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	43億2,758万円
経常収益	8億1,412万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	90億974万円
臨時損失 災害復旧費など	548万円
臨時利益 資産売却益など	890万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	90億631万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（平成30年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	8.5	25.00
将来負担比率 (%)	44.2	350.00

聖籠町の統一的な基準による財務書類（平成30年度 連結会計）概要

平成30年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	128億8,769万円	1 固定負債 (1) 地方債 88億7,394万円 (2) 退職手当引当金 18億7,593万円 (3) その他の固定負債 68億4,141万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	171億406万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 1億304万円 (2) その他の流動負債 11億9,342万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	21億9,303万円	負債合計 188億8,774万円
	(4) 投資その他の資産	43億2,982万円	
2 流動資産	(1) 現金預金	20億1,574万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
	(2) 基金、未収金など	7億2,199万円	純資産合計 203億6,459万円
資産合計		392億5,233万円	負債及び純資産合計 392億5,233万円

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	15億5,142万円
本年度資金収支額	1億7,059万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	10億6,391万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△4億7,457万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△4億1,875万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	1億1,497万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	20億1,574万円

③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	205億7,386万円
本年度変動高	△2億926万円
△純行政コスト	△98億22万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	97億4,588万円
資産形成への充当	1億7,854万円
その他	△22億9,483万円
本年度末純資産残高	203億6,459万円

町の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（平成31年3月31日現在人口 14,365人）

資産 = 273万円 負債 = 131万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 51.9%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）…… 63.6%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 平成30年度末現在：償却資産取得価額等： 727億607万円 減価償却累計額： 462億2,329万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 92.7%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

町の平成30年度財政運営の総括

① 業務活動収支 10億6,391万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △4億7,457万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △4億1,875万円（将来世代の負担）

①～③の合計である平成30年度の資金収支は 1億7,059万円

前年度資金残高との合計は 20億1,574万円

② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	110億4,584万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	18億3,752万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	43億2,819万円
その他の業務費用 支払利息など	2億7,697万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	46億316万円
経常収益	12億4,849万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	97億9,735万円
臨時損失 災害復旧費など	2,001万円
臨時利益 資産売却益など	1,715万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	98億22万円

● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率（平成30年度）

	聖籠町	早期健全化基準
実質赤字比率 (%)	—	15.00
連結実質赤字比率 (%)	—	20.00
実質公債費比率 (%)	8.5	25.00
将来負担比率 (%)	44.2	350.00